

令和2年度第1回障害保健福祉施策連絡会会議録

1 開催日時

令和2年8月11日（火） 午後1時30分から午後3時20分まで

2 開催場所

浜松市役所 北館1階101、102会議室

3 出席状況

（出席）

浜松市浜松手をつなぐ育成会

NPO法人浜松地区肢体不自由児親の会

NPO法人浜松地区精神保健福祉会 明生会

浜松市視覚障害者福祉協会

アクティブ

浜松の福祉を考える会

浜松ろうあ協会

浜松市浜北手をつなぐ育成会

ぞうさんの会

NPO法人浜松市身体障害者福祉協議会

（欠席）

天竜川地域精神保健福祉会 若杉会

（浜松市障がい者基幹相談支援センター）

（事務局 障害保健福祉課）

4 議事内容

- （1）第6期浜松市障がい福祉実施計画及び第2期浜松市障がい児福祉実施計画について
- （2）障害福祉のしおりにおける音声読み上げ対応の見直しについて
- （3）その他

5 記録の方法

発言者の要点記録

6 会議記録

- 1 開会
- 2 議事

- (1) 第6期浜松市障がい福祉実施計画及び第2期浜松市障がい児童福祉実施計画について

事務局より資料1・2に基づき説明。

- ①計画の目的
- ②計画の位置付け
- ③国が定める成果目標
- ④策定までのスケジュール
- ⑤「浜松市障がい福祉に関するアンケート調査報告書、結果概要」の報告

〈浜松ろうあ協会〉

施設から一般就労へ移行するパーセントが上がっているというが、新聞を読むと障害者の就職は難しく、就職率は下がっているという。コロナの影響で、会社運営も難しい今、真っ先に障害者が影響を受けるのではないかと、浜松市の現状を聞きたい。実際にコロナの影響があるのか聞きたい。

〈事務局〉

実際のコロナの影響については、一般就労についてはそれほど影響は受けていないようだが、B型事業所等においては、なかなか作業がないので、少し減っているというようなことを聞いている。

〈浜松ろうあ協会〉

影響が少しでもあるようなら、市としてどのような対策をするのか。

〈事務局〉

就労支援施設においては、国の補助金があるため、事業所に伝え周知を図っている。県では工賃が下がった場合は、就労支援施設に補助をするという制度があるため、その制度を使用していると聞いている。

〈視覚障害者福祉協会〉

今回の調査結果について疑問を感じた。いろいろな障害があり、障害ごとで捉え方が違っている。調査そのものは良いと思うが、障害ごとに求めるものが違う。次年度から障害者ごとの要望を細かく捉えて欲しい。障害者ごとに取りまとめをして欲しい。

〈事務局〉

今回のアンケートについては、障害福祉サービスの利用の見込状況という事で、それぞれの障害別の目標値を求めたものではない。ただ今回の調査については、身体障害手

帳、療育手帳、精神手帳、または手帳を持っていない人等、障害別に数値は出している
ので、数値を見ながら設定をしていきたい。

〈浜松手をつなぐ育成会〉

成果目標について、これは国が定める成果目標であり、浜松市という地域性と国の定め
とでは違いがあるのではないかと。国が出した成果目標から浜松市としてどのように目
標を設定していくのか。

〈事務局〉

浜松市の特徴をどう捉えるのかだが、まずサービスの利用実績を見ていくのと、障害
者がどれだけ増えていくのか、またサービス利用がどれだけ増えていくのかを見ながら
数値設定をしていきたい。

〈浜松手をつなぐ育成会〉

障がい福祉実施計画の進捗状況は次回の報告という事だが、常に毎年毎年の計画があ
り、それに対する各項目のそれなりの進捗報告があってしかるべきだと思うが、今回の
進捗状況が次回だというのは、どういう形で報告が出てくるのか。

〈事務局〉

進捗については、毎年度の報告と同じように令和元年度にどれだけ利用があったかと、
見込値に対する利用率で出させていただく。

〈浜松手をつなぐ育成会〉

次回の時にはそれを含めた形で報告していただくということなのか。

〈事務局〉

そのように報告させていただく。

〈明生会〉

コロナの関係でB型事業所の収入が下がった場合は補助があるということだったが、
実際自分が関係する事業所ではコロナの影響で仕事が減る前に営業にでて、新しい仕事
を取って来たため、実際の調査報告では収入は下がっていないことになる。しかし、新
たな仕事を取ったことにより設備が必要になり50万円ほどの結束機を購入した。収入
が減る前に対策をとり、新しい設備が必要になった場合、何か補助はあるのか。

〈事務局〉

現状、市の制度として補助はない。国の制度としても前年度比で収入が減った事業所
に対しての補助である。

〈明生会〉

現状は分かったが、要望として挙げていきたい。

〈事務局〉

他の部門であるか、確認はする。

〈アクティブ〉

アンケートとしては現状把握を目的にすると思うが、今回のアンケートで、困った時相談する相手がどの年齢も家族・親族が一番多くなっている。この結果は当然だと感じるが、相談された家族が困った時に、次にどこに相談すればいいのかが見えない。相談支援事業所の重要性の再確認にも繋がるため、その部分が詳しく分かるといいと思う。

〈事務局〉

今後その点について把握できる術があるか検討していく。

〈浜松ろうあ協会〉

施設で働いている人が一般就労に移行することについて聞きたい。ジョブコーチが足りないのではないか。もし一般就労に移行した場合何の支援もないと困ってしまうため、ジョブコーチがついて作業が進められた方がいい。ジョブコーチについて教えていただきたい。

〈事務局〉

ジョブコーチが足りないという事か。

〈浜松ろうあ協会〉

そうです。

〈事務局〉

その点については、ハローワークとも調整した中で、詳しい方策が取れるように協力してやっていきたい。

〈福祉を考える会〉

計画に実績が反映されるという事だが、コロナの影響で3月以降のサービスの量が変わってきている。コロナウイルス感染リスクを考えて、サービスを十分に使えていないのが現状である。実績の数字に挙がっていないのに、そのまま、計画に反映されてしまわないか心配。また、移動支援や居宅介護の実績がないと、次回の時間数が減らされてしまうことになる。一度時間数を減らされると増やすことが難しくなる。通常とは違うという事を分かって欲しい。

〈事務局〉

心配されているとおり、3月の実績は下がっているサービスが多くある。その部分についてはコロナの影響で下がっていると考え、長いスパンで何年かの実績からみていく。直近の数字だけでは判断しない。

〈アクティブ〉

アンケート結果について、日常生活で困っている事の中で、18歳未満「今後の就職先、進路先等について不安を感じている」42.9%の結果から、調査日が昨年12月でコロナウイルスが流行する前にもかかわらず多い。今の就労支援施設利用者については国からの補助等で守られているけれど、今後支援学校を新規で卒業される子たちの就労支援施設先があるのか、来年以降のコロナ禍の中でも受け入れてくれるか、今の利用者で手一杯で対応できないのではないかと、就労について不安を持ってしまう。保護者にとって就労に関する情報が無いと更に不安になってしまうため、情報を出してもらいたい。

〈事務局〉

今後についてハローワークの方達とも情報交換をしていきたい。皆さんの所には情報を流し周知をしていきたい。

〈浜北手をつなぐ育成会〉

先ほど情報という話が出たが、発達支援学級の保護者は、情報を持っていない。それは、学校の支援級の先生方についても同じで、詳しいことは分からないと思う。学校にも情報を流してほしい。また、自立に向けて活動していても、グループホームが空いておらず会社から通えるところを探しているが全然見つからない。それについても考えてほしい。

〈事務局〉

学校への情報提供については、今年度障がい者自立支援協議会の体制の見直しをした。教育も関わってもらうように進めようとしている。従ってそこから教育の方に情報が伝われば良いと思っている。

〈事務局〉

グループホームの方も計画に反映できるように、当事者の意見を聞いて参考にしていきたい。

〈浜松手をつなぐ育成会〉

先ほどからコロナの状況についての報告と、令和5年度までの計画が出ている。国もさまざまな対策を取っているが、今の生活がコロナの影響を受けているという中で、計画の整合性を出していかなければいけない。障害者が地域で当たり前で生活する、会社の中で当たり前で暮らす等、障害のある方の生活を後退させてはならない。障害者団体が一致団結して、地域で障害者が安心して暮らすという事を目指していきたい。コロナで特別な時期があることも含めて計画に反映してほしい。

〈事務局〉

当事者の意見を聞きながら、計画に反映していきたい。

〈ぞうさんの会〉

国が定める成果目標の中で、施設入所者の地域への移行について記載がある。一回施設に入所すると地域に出ていくことは難しいと思うが、この成果目標は施設側も理解しているのかということと、今後入所を希望している人がなかなか入りにくくなるのではないかという事が不安。そのことについて聞きたい。

〈事務局〉

入所施設側も、地域へ移行することは承知している。施設から地域にどれだけ移行したか調査をしているが、入所者の重度化が進み、地域への移行が難しくなっている。令和元年度の移行者数は8人で、少ない数字だった。しかし、グループホームに出ていくことでの調整もしている。今後入所しづらくなるのではないかという心配もあるが、地域で一緒に暮らしていくという目標を持っていきたい。ただ、入所の待機者数が270人を超えているため、すぐ入所したいとなっても難しいのが現状。

〈福祉を考える会〉

国が定める成果目標のうち、地域生活支援拠点の整備で「親亡き後」という言葉が出てきたが、浜松市では「親亡き後」ではなく、「親が元気な時に」という言葉を使って欲しい。国は「親亡き後」と定めているが、浜松では「親が元気な時に」自立や、グループホームに入るなり、親の目で確認できる状況を作っていくという目標を持って欲しい。

〈事務局〉

言葉を考えさせていただく。

〈明生会〉

国が定める成果目標のうち、障害児支援の提供体制の整備で、医療的ケア児支援のため、保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関が連携を図るための協議の場を設けるとともに、医療的ケア児等に関するコーディネーターを配置するという事が書かれているが、障害保健福祉課だけではなく、色々な課と関わりを持ち目標値を設定することが必要だと思う。今はコロナの関係で子供たちは不安やストレスを抱えていて、障害を持っている子供たちは更にストレスを抱えていると思う。アンケートの中で、困った時に相談する答えで一番多いのが、家族・親族で、次は学校、幼稚園、保育所等の職員になっている。コロナによって見えてきた部分として、以前は40人学級で隣との間隔を60cmしか開けることができなかったが、コロナによって2mの間隔が必要になったことから、一クラス20人くらいしか教室に入れなくなった。しかし、20人以下になると、子供たちの不安や悩みをしっかりと見ることができ、余裕をもって子供たちの話を聞くことができるようになった。これが通常に戻ると、一クラスの子供たちが多くなり十分目が行き届かなくなる。こういった点からも教育行政の意見も聞きながら、数値目標を定めて欲しい。

〈事務局〉

自立支援協議会の場で教育委員会の方たちの参加を得て、子供たちのことを話す機会

を本年度から始めようとしている。コロナの関係で遅れてはいるが、今後積極的に進められるようにしたい。

(2) 障害福祉のしおりにおける音声読み上げ対応の見直しについて

事務局より資料3に基づき説明。

毎年1回、障害福祉サービス全般が記載された、障害福祉のしおりを発行している。この中で、音声読み上げ対応の「SPコード」を印刷している。仕組みはワードで読み上げ文章を作成し、それを専用ソフトにて、QRコードのような二次元コードへ変換。変換した二次元コードを専用の読み上げ機械で、音声に変換している。

しかし、これらの専用ソフト・専用機器が2020年3月末で販売終了となった。代わりとなる読み上げ方式について来年度から印刷できるよう関係団体と調整をしていく。

〈浜松手をつなぐ育成会〉

現在のものは、非常に有効なもの。業者が変わるけれどSPコードに準ずるものがあるということか。この議題は業者が変わることの了承を得たいと言っているのか、SPコードが全然違うものになることを了解して欲しいのか、説明して欲しい。

〈事務局〉

今後パソコンを更新した際に、専用ソフト等の販売が終了してしまっているため、SPコードを読みこむソフトが使用できなくなってしまう。従って、同じように読み込めるものに変えていく。変わったという事後報告ではなく、現状では使えなくなるということを理解していただき、これから今までと同じように使えるものを探していくという事前報告となる。

〈福祉を考える会〉

コロナの影響で今回の連絡会に参加できなかった方がいるので、オンラインでの参加について考えて欲しい。また、コロナの影響で移動支援やサービスが使えなくなっている現状なので、事業所の経済的な影響を心配している。このような現状で、事業所が撤退していくと、いざ使いたい時に使える事業所が減ってしまうのではないかと不安である。早めに今後の対応を考えて欲しい。

〈事務局〉

会議については、ウェブ会議等、意見を聞きながら今後検討していきたい。移動支援については、従事者が増えるよう研修を行っている。引き続き検討しながら進めていきたい。

〈視覚障害者福祉協会〉

6月上旬に、同行援護がコロナで影響が出て、サービスが低下するという事で市に対して改善してもらえるように要望した。近隣の、磐田市・袋井市・掛川市と比べて、浜松はサービスの提供時間が低い傾向にある。浜松市が困窮した市なら分かるが、政令指定都市で十分対応できるはずで、それについても要望してきたが、回答がない。なる

べく早く回答をお願いしたい。

〈事務局〉

全国の政令市に状況を確認しているところ。回答が出揃ったため近々に返事をしたい。

〈視覚障害者福祉協会〉

早めの回答をお願いしたい。

〈浜松手をつなぐ育成会〉

現在の障害児福祉サービスは、保護者の対応が困難な場合、障害児通所事業所や行動援護、移動支援が児童に対して支援を提供することになっている。しかし、サービスの利用頻度が高まるのと反比例して、保護者の対応能力がついていけなくなっている。児童入所施設では、放課後デイサービスが広がったことにより現状は逼迫していないと聞いている。放課後デイサービスがバッファ的な役割をしている反面、放課後等デイサービスが学齢期のサービスであるため、特別支援学校を卒業した子達の行き先がない。基幹相談支援センター、委託相談、計画相談等活用しながら、将来困らないようにする仕組みを、今回の計画の中に組み込んでほしい。国が示した数値だけでなく、浜松市としてどう取り組むのかといった内容を組み込んでほしい。

〈事務局〉

基幹相談支援センターとも相談して進めていきたい。

〈浜松手をつなぐ育成会〉

自立支援協議会のことだが、南区と西区が一つになり様々な課題解決の場であるはずが、二つが合併したことにより、今までやれていたことができなくなったり、体制的にマイナスな方向になってしまっていることは無いか。

〈事務局〉

マイナスな方向になっているという具体的な事例があるか。

〈浜松手をつなぐ育成会〉

新しい体制になって、人数も絞って協議ができるような体制になりいいと思うが、以前の南区だと民生委員や地域の方のいろんな意見が聞けたが、現在は実質、活動休止状態になっているようなことを聞いた。

〈事務局〉

エリア全体会としてのメンバーについては人数を絞って、検討できる場にしてもらいたい旨を伝えたが、部会については、エリアの実情に合わせて設置してもらおうようお願いしている。今までのものを継続できない体制ではないため、コロナの影響で進みが悪いのではないかと。

〈浜松手をつなぐ育成会〉

そもそも、エリアを西と南で一緒にした目的は何なのか。コロナで出来ないという事ではなく、色々な人の声を拾う場所が失われてしまっているのではないか。西は今までの活動をベースに勧めているが、南の活動が停滞してしまっていると聞いている。

〈浜松市障がい者基幹相談支援センター〉

西と南でなぜエリアを一緒にしたことは市から説明をしてほしい。現状の中で、一つはやはりコロナの影響はあって、どうしても最初に全体を集めた話し合いや、部会の設置の説明等を進めるにあたって人を集めることができずに、実際の活動がなかなかできていないということがある。基本的には、西南の今までやってきたものを踏襲していく流れだった。南区も地域部会等、積極的に活動をやってきたが、今の状況でなかなか人も集めることができず、思うように進められていないことは理解してほしい。こういった意見があったことは報告していく。

〈明生会〉

アンケート内の将来希望する暮らし方について、家族と暮らしたいが多いが、一人暮らしをしたい数字も多くなっている。将来グループホームよりも、アパートなどで一人暮らしをしたいという人が増えてきている。親がいる間に一人暮らしをさせてあげたいと思うが、現状では一人暮らしのサポートは不十分だと思う。困った時にすぐに助けてあげられるようなサービスがあるといいと思う。

〈事務局〉

24時間連絡体制がとれる地域定着支援のサービスがある。

〈明生会〉

24時間連絡体制があったとしても信頼関係がない人が急に来るよりも、普段関わりのある職員の方が安心すると思う。例えば、一人暮らしをしている方をB型事業所がサポートした場合に加算をつけてもらえる等、一つの例として述べさせてもらう。

以上で当事者部会を終了する。